



福岡市消防局
Fukuoka Fire Prevention Bureau



Press Release



平成 29 年 8 月 9 日

福岡市政記者 各位

平成29年上半期の消防統計について

～統計を踏まえた安全・安心情報の提供～

平成 29 年上半期の統計資料を作成いたしましたので、広く市民の皆様へお知らせいただきますようお願いいたします。

なお、各統計値につきましては速報値となっております。



～ 問い合わせ先 ～

- 災害救急指令センター
【119番受付担当】樋口, 三苫, 木下
電話: 092-725-6585 (内線: 147-6586)
- 予防課
【火災担当】浦山, 川越
電話: 092-725-6561 (内線: 147-6561)
- 救急課
【救急担当】永野, 野津
電話: 092-725-6571 (内線: 147-6571)

目次

1 119番通報について

- (1) 119番通報の主な特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1ページ
- (2) 119番通報概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2ページ

2 火災について

- (1) 火災の主な特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3ページ
- (2) 火災概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4ページ

3 救急について

- (1) 救急の主な特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7ページ
- (2) 救急概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8ページ

凡 例

統計表の符号の使い方は次のとおりです。

- 「0」又は「0.0」 … 四捨五入の結果，単位に達しないもの
- 「－」 … 皆無または該当数のないもの
- 「△」 … 負数を表す

※ 増加率及び割合は，小数点以下第2位を四捨五入

119番通報の主な特徴

1 119番通報のうち災害・救急の通報は 50,415 件で 536 件増加

…2頁1参照

- 平成 29 年上半期の 119 番通報は 50,415 件で、前年の上半期（49,879 件）に比べ、536 件増加しています。
- 災害・救急の通報は 39,215 件で、前年の上半期（38,846 件）に比べ、369 件増加しています。
- 各種問い合わせや間違いなど、緊急性のない 119 番通報は 9,137 件で、前年の上半期（9,148 件）とほぼ同数（11 件減）です。
※各種問い合わせとは、病院問い合わせや災害に関する問い合わせ等です。
- 上半期の 1 日あたりの通報件数は 278 件（前年 274 件）で、約 5 分 10 秒に 1 件の割合で通報を受信しています。

増加の主な要因は、救急要請の急激な増加（643 件）によるものです。

なお、前年の平成28年1月の降雪の際、湿度の上昇に起因すると思われる自動火災報知設備のベル鳴動の誤作動事案が多発した関係で、今年は当該原因にかかるものが大きく減少（167 件）しています。

2 119番通報種別（災害・救急関係）について、全体の約7割が「救急」関係

…2頁1参照

- 通報種別による災害・救急通報件数の主なものは、「救急」37,749 件(74.8%)、「警戒」744 件(1.4%)、「火災」451 件(0.8%)、「救助」266 件(0.5%)となっており、平成28年に引き続き、全体の約7割が「救急」関係の通報となっています。
※「警戒」とは、自動火災報知設備等によるベル鳴動や、交通事故等による油等の漏洩及びガス漏洩等です。
※「救助」とは、交通事故や水難事故、機械事故等により要救助者が発生した場合です。

3 電話別 119番通報状況 携帯電話が増加傾向継続

…2頁2参照

- 平成 29 年上半期の電話別 119 番通報状況は、固定電話からの通報が 22,333 件（44.3%）、携帯電話からの通報が 28,081 件（55.7%）です。平成 27 年から携帯電話による通報が、固定電話からの通報を上回っており、増加傾向となっています。
- Eメール（登録制）での通報は 0 件、FAXによる通報は 1 件（救急）受信しています。

携帯電話による通報では、GPS（全地球測位システム）を活用することで、現在地の特定を容易にすることができます。119 番通報する際は、出来るだけGPS機能を有効に行いましょう。

4 消防隊員、救急隊員が到着するまでの間、口頭による応急手当の指導

…2頁3参照

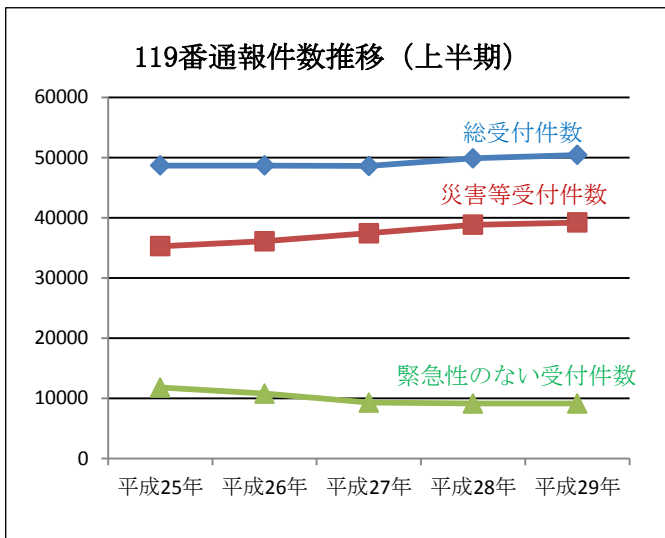
- 市民からの救急要請時、出動指令をするとともに、救急車が現場に到着するまでの間、通報者から傷病者の状態を聴取し、気道の確保や心肺蘇生など症状に応じた口頭による応急手当の指導を行い、救命率の向上に努めています。
※口頭による応急手当の指導とは、救急車が現場に到着するまでの間、通報者から傷病者の状態を聴取し状態に応じて、気道の確保や心肺蘇生などの指導を行うことです。（以下「口頭指導」という）
- 平成 29 年上半期の口頭指導の件数は 674 件で、このうち「心肺蘇生」が 509 件で最も多く、次いで「その他」（異物除去、止血法熱傷手当等）が 84 件、「AED」が 81 件の順となっています。

呼吸や心臓が止まった方の救命率の向上には、救急隊が到着するまでの間に、現場に居合わせた方（バイスタンダー）による応急手当の実施が大きく影響します。いざという時のために救命講習を受講しましょう。

119番通報概況

1 119番通報件数（上半期）

通報種別	平成28年	平成29年	前年比	
火災	455	451	△ 4	
特別救急	2	0	△ 2	
救助	244	266	22	
警戒	1,010	744	△ 266	
その他の災害	29	5	△ 24	
救急	37,106	37,749	643	
小計	38,846	39,215	369	
問い合わせ	災害等	118	82	△ 36
	搬送先照会	147	132	△ 15
	メディカル	1,308	1,423	115
	その他	90	119	29
間違い	1,895	1,811	△ 84	
悪戯	109	186	77	
相談・応答なし・苦情等	5,481	5,384	△ 97	
小計	9,148	9,137	△ 11	
通報訓練	1,885	2,063	178	
合計	49,879	50,415	536	



※ 災害等通報件数は、各種災害及び救急区分の受付合計

※ 緊急性のない受付件数は、災害等受付件数と訓練を除いた合計

※ 「特別救急」とは、多数の傷病者が発生した災害内容

※ 「その他の災害」の内容は、自然災害・他都市応援

※ 「メディカル」とは、福岡県が委託している医療情報センター
で病院問い合わせ等に関すること

※ 「問い合わせ・その他」とは、動物救助・消防設備等に関すること

【1日あたりの119番通報件数（上半期）】

	平成28年	平成29年
1日平均	274	278
時間割合	5分15秒/件	5分10秒/件

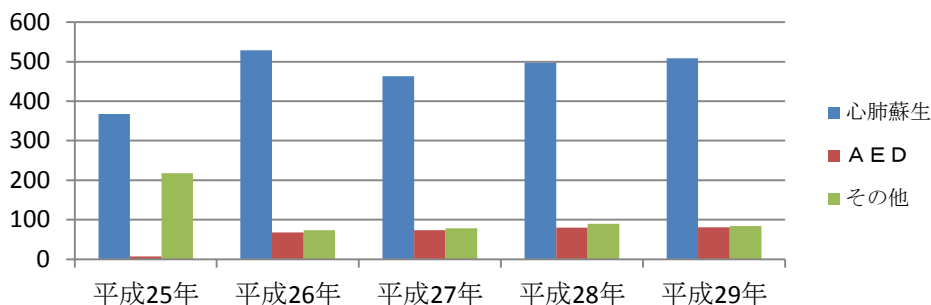
2 電話別119番通報件数（上半期）

種別	平成28年	平成29年	前年比	割合	
				平成28年	平成29年
固定	22,704	22,333	△ 371	45.5%	44.3%
携帯	27,168	28,081	913	54.5%	55.7%
Eメール	2	0	△ 2	-	-
FAX	5	1	△ 4	-	-
合計	49,879	50,415	536	-	-

3 口頭による応急手当指導状況（上半期）

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
心肺蘇生	368	529	463	497	509
AED	7	68	73	80	81
その他	218	73	78	90	84
合計	593	670	614	667	674

口頭による応急手当指導推移（上半期）



※ その他：異物除去，止血法，指趾切断，熱傷による口頭指導等

火災の主な特徴

1 火災件数は165件、焼損面積及び損害額はともに増加

…4頁1・2・3参照

- 平成29年上半期の火災件数は165件で、前年の上半期（143件）に比べて22件増加しています。
 - ※ 過去5年間の平均（159件）と比べると、6件の増加です。
 - ※ このうち建物火災の件数は115件で、前年と同数となっています。
- 平成29年上半期の焼損床面積は1,344㎡で、前年の上半期（1,207㎡）に比べて137㎡増加しており、損害額は1億1,998万7千円で、前年の上半期（8,856万6千円）に比べて3,142万1千円増加しています。
- 増加の要因としては、建物火災により全焼若しくは半焼した建物が17棟であり、昨年（10棟）に比べて増加したことや、損害額が1,000万円を超える火災が3件発生し、昨年（2件）に比べて増加したことが考えられます。

2 出火原因の1位は「こんろ」36件、2位は「たばこ」32件、3位は「放火」22件

…5頁4参照

- 平成29年上半期の出火原因別の上位3位は、1位が「こんろ」36件（21.8%）、2位が「たばこ」32件（19.4%）、3位が「放火（疑い含む）」22件（13.3%）の順となっています。

上半期の出火原因1位が「放火（疑い含む）」以外になるのは昭和62年以来30年ぶりです。
こんろによる火災が多く発生しています。こんろは定期的に清掃を行い、周辺の整理整頓を心がけるとともに、調理中はその場を離れないようにしましょう。また、過熱防止機能が付いているこんろを使用するなど、火災の発生を防止しましょう。

※古いこんろや大型のこんろには過熱防止機能が付いていないものがありますので注意してください。

3 死者は6人で3人増加、負傷者は29人で4人増加

…5頁4参照

- 平成29年上半期の火災による死者は6人で、前年の上半期（3人）に比べ、3人増加しています。
 - ※ このうち高齢者（65歳以上）の死者は3人で、前年の上半期（3人）と同数です。
 - ※ 死亡原因は、放火自殺3人、逃げ遅れ1人、その他（調査中・不明を含む）2人となっています。
- 平成29年上半期の火災による負傷者は29人で、前年の上半期（25人）に比べ、4人増加しています。
 - ※ このうち高齢者（65歳以上）の負傷者は18人で、前年の上半期（7人）と比べて11人増加しています。
 - ※ 住宅火災における負傷者数は28人で、前年の上半期（25人）に比べ、3人増加しています。

負傷者のうち17人（58.6%）は初期消火中及び避難中に受傷しています。
火災が発生したら、あわてずに消火器等を使用して初期消火を実施し、初期消火が困難であると感じたときは、無理をせず避難することが大切です。

4 住宅用火災警報器の奏功事例は9件（火災8件、非火災1件）

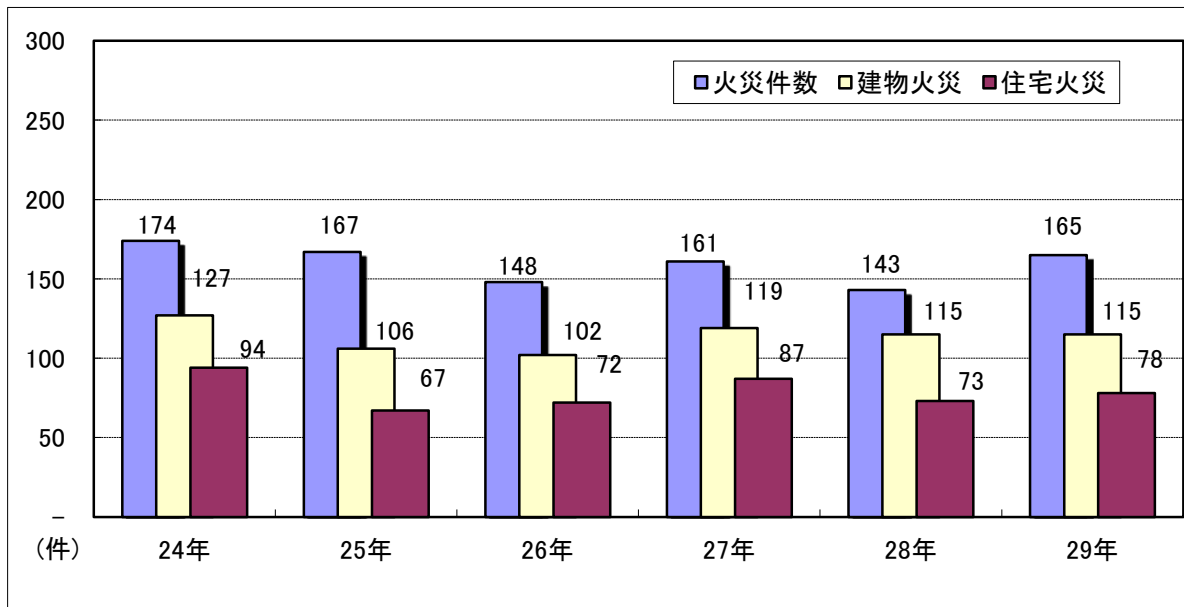
…6頁5参照

- 住宅用火災警報器の奏功事例は、上半期9件の事例が報告されています。
 - ※ 典型的な奏功事例： 家人が外出中、たばこの不始末により火災が発生したが、住宅用火災警報器の音に気付いた隣人が119通報し、ぼやで消し止められた。

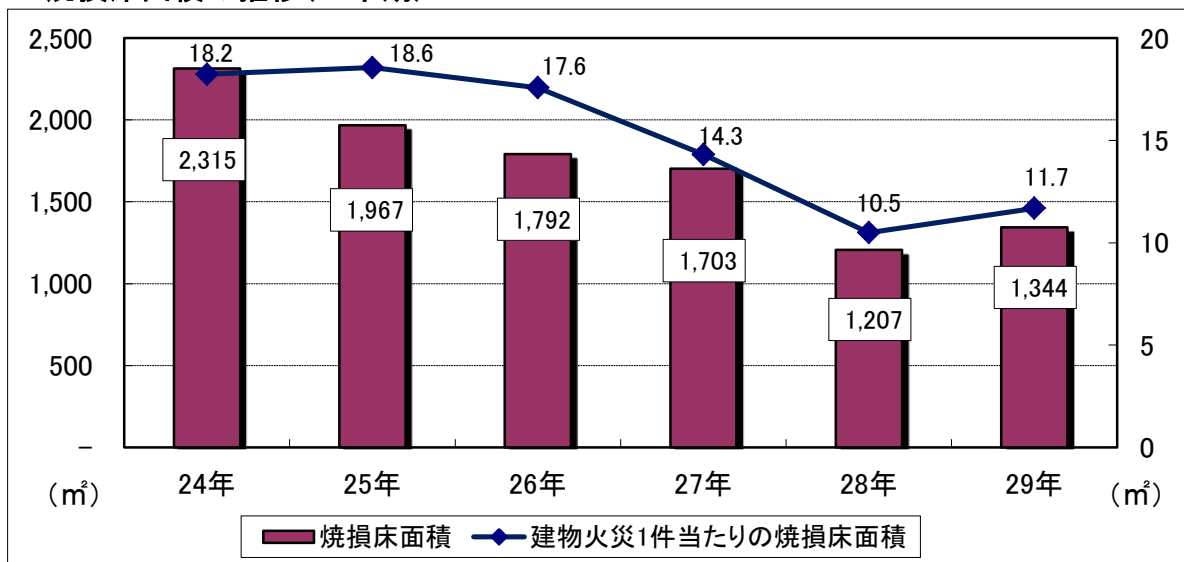
住宅用火災警報器は、大切な命や財産を守り、被害の軽減に大きく寄与する機器である（6ページ「(2)住宅用火災警報器の設置効果」参照）ことから、必ず設置してください。また、すでに設置されているご家庭は、住宅用火災警報器が正常に作動するか点検を実施してください。点検方法は、テストボタンを押すものやひもを引くものなど機種によって異なりますが、個人で実施することができます。詳しくは、取扱説明書等でご確認ください。正常に動作しなかった機器は、必ず新しいものと交換しましょう。また、購入から10年以上が経過している機器についても交換をおすすめします。

火災概況

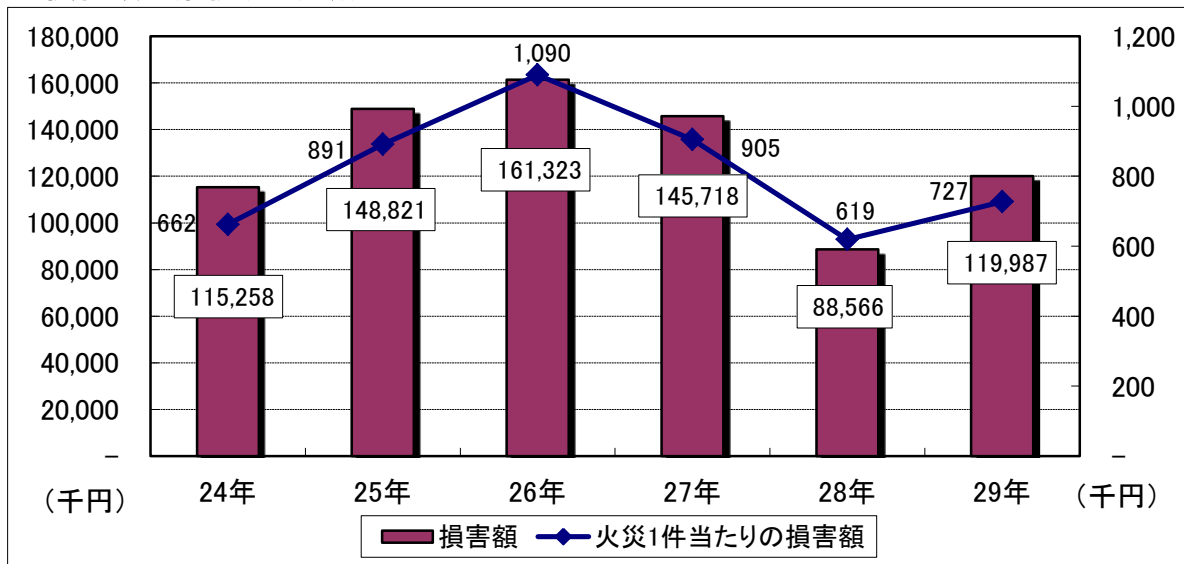
1 火災件数の推移(上半期)



2 焼損床面積の推移(上半期)



3 損害額の推移(上半期)



4 火災概況

区 分	前年との比較			上半期平均 (過去5年間)
	平成29年 上半期	平成28年 上半期	増 減	
火 災 件 数	165	143	22	159
爆 発 火 災	1	2	△1	1
火 災 種 別 件 数				
建 物 火 災	115	115	-	114
住 宅 火 災	78	73	5	79
林 野 火 災	4	-	4	4
車 両 火 災	12	12	-	14
船 舶 火 災	1	-	1	1
航 空 機 火 災	-	-	-	-
そ の 他 の 火 災	33	16	17	27
焼 損 棟 数	138	130	8	135
焼 損 程 度 別				
全 焼	12	8	4	11
半 焼	5	2	3	4
部 分 焼	38	34	4	41
ぼ や	83	86	△3	79
焼 損 床 面 積 (m ²)	1,344	1,207	137	1,797
林 野 焼 損 面 積 (a)	23	-	23	10
損 害 額 (千 円)	119,987	88,566	31,421	131,937
り 災 世 帯 (世 帯)	125	110	15	119
り 災 人 員 (人)	231	205	26	252
死 者 (人)	6	3	3	4
高 齢 者 死 者 (65 歳 以 上)	3	3	-	3
負 傷 者 (人)	29	25	4	32
出 火 原 因 別 件 数				
こ ん ろ	36	25	11	28
油 鍋	16	10	6	12
た ば こ	32	23	9	22
放 火	22	32	△10	36
ス ト ー ブ	9	6	3	8
配 線 器 具	6	9	△3	6

※ 過去5年間の平均は平成24年～28年の数値で、小数点第1位を四捨五入したもの

※ 平成29年中の火災は、調査中の事案を含むため、各数値については概数

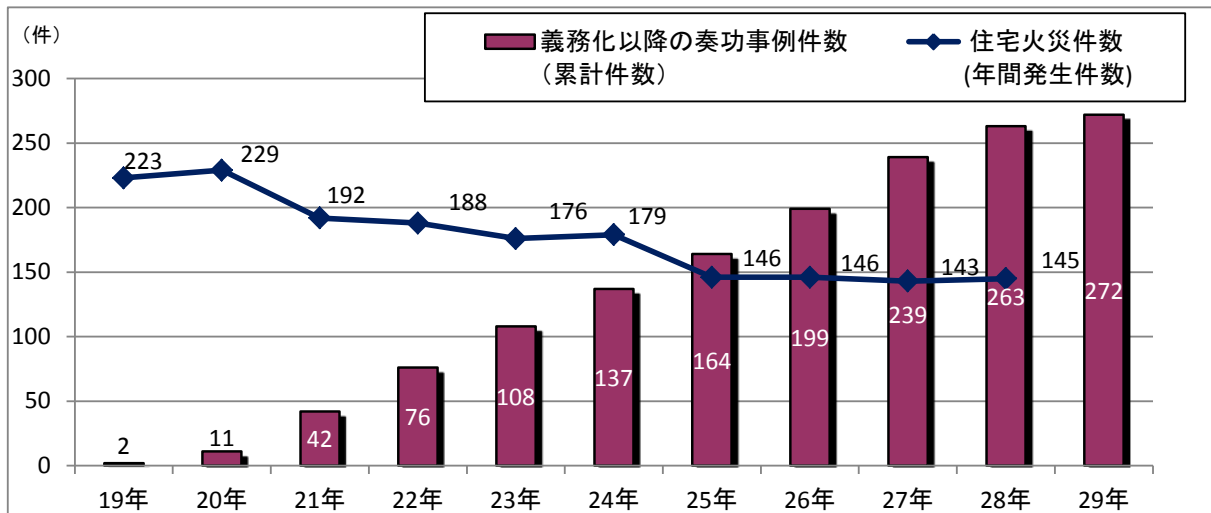
5 住宅用火災警報器の奏功事例及び設置効果

(1) 奏功事例件数と住宅火災件数の推移

平成29年上半期の奏功事例は9件（火災8件，非火災1件）あり，住宅用火災警報器の設置が義務化されて以降の累計奏功件数は272件となっています。

平成29年上半期中には，就寝中の奏功事例が3件ありました。

平成18年6月に住宅用火災警報器の設置が義務化されて以降，住宅火災は減少傾向にあります。



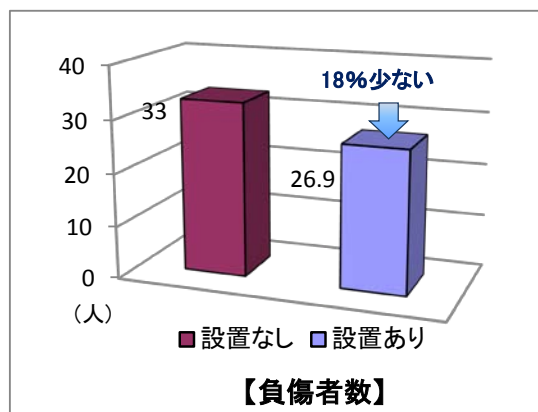
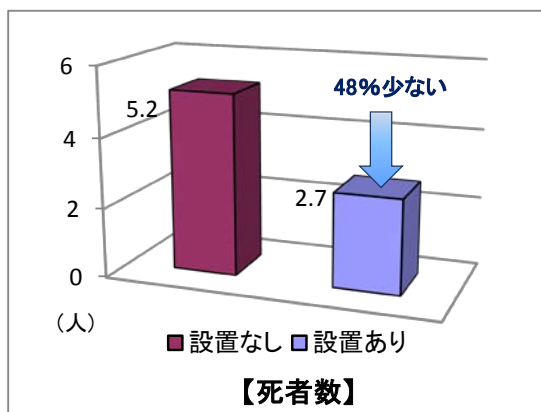
※グラフ中「29年」は，平成29年6月末日現在までの累計件数です。

(2) 住宅用火災警報器の設置効果

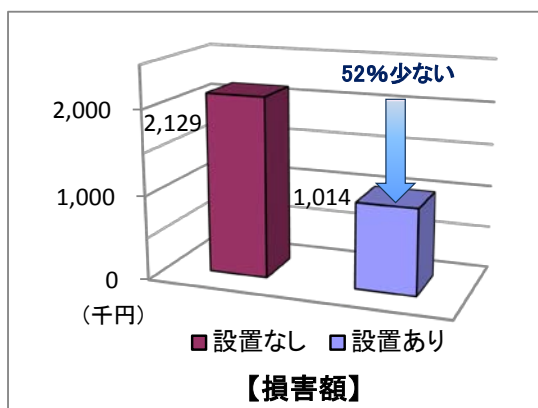
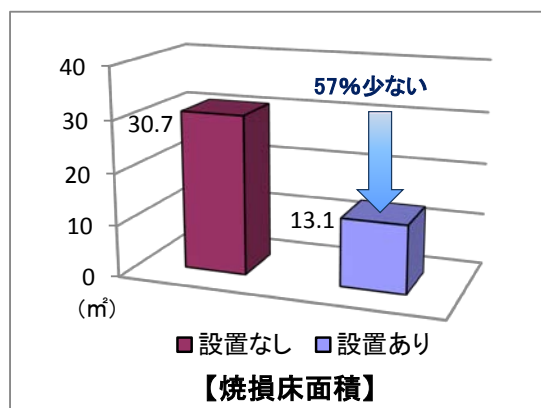
平成24年から平成28年の5年間に発生した住宅火災403件（※）について，住宅用火災警報器の効果进行分析すると，住宅用火災警報器を設置していた場合は，設置していない場合に比べ，死傷者数，焼損床面積及び損害額が少なくなっています。

（※）自動火災報知設備を設置した住宅及び放火自殺による住宅火災を除く。

① 住宅火災100件当たりの死傷者数



② 住宅火災1件当たりの焼損床面積・損害額



救急の主な特徴

1 出動件数、搬送者数ともに過去最高／救急活動所要時間が延伸

… 8 頁 1 ・ 9 頁 4 参照

- 平成 29 年上半期の救急出動件数は 37,957 件で、前年の上半期（36,967 件）に比べ、990 件増加（2.7%増）しました。
また、搬送者数は 33,030 人で、前年の上半期（32,575 人）に比べ、455 人増加（1.4%増）しています。
※ 出動件数及び搬送者数ともに救急業務を開始した昭和 25 年以降、最高の件数です。
- 平成 29 年上半期の 1 日あたりの平均出動件数は、209.7 件で 6 分 52 秒に 1 回の割合で出動し、年間利用率に換算すると市民約 20 人に 1 人が利用したことになります。
※ 市内では、29 台の救急自動車に救急要請に対応しています。
- 救急出動件数の増加や交通状況等により、現場到着時間や病院到着時間が年々伸びています（9 頁参照）。

救急要請の中には、単なる酒酔いや打撲、切り傷などによるもののほか、病院までのタクシー代わりに要請するなど、不適正なケースも少なくありません。福岡市は 29 台の救急車ですべての救急要請に対応しています。不適切な要請は、本当に救急車が必要な方の搬送を遅らせることにもなりかねません。救急車の適正利用をお願いします。
救急車を呼んだ方がいかに迷った時や受診できる病院を知りたい時には、電話で相談できる「#7119」（短縮ダイヤル）の活用をお願いします。
また、現場到着や病院到着までの時間も年々伸びています。車等の運転中に緊急自動車が接近してきた場合には、道を譲ってください。

2 出動種別は、「急病」、「一般負傷」、「転院搬送」の順

… 8 頁 2 参照

- 平成 29 年上半期の救急車が要請された原因別による出動件数は、「急病」が 24,552 件（全体の 64.7%／前年比 584 件増）、「一般負傷」5,632 件（全体の 14.8%／前年比 295 件増）、「転院搬送」2,892 件（全体の 7.6%／前年比 6 件増）、「交通事故」2,822 件（全体の 7.4%／前年比 111 件増）の順となっています。
※ 「急病」とは、急な病気や症状悪化等の疾病によるものです。
※ 「一般負傷」とは、転倒や転落等により受傷したもので、他の種別に分類できない不慮の事故です。
※ 「転院搬送」とは、医療機関に収容された患者が急な症状の悪化や、より専門的な処置を必要とする場合に、緊急に他の医療機関に搬送する必要がある場合において、当該医療機関の依頼に基づき救急車で搬送するものです。

3 65 歳以上の搬送者数は増加し、主に急病、一般負傷が増加

… 10 頁 5 ・ 6 参照

- 平成 29 年上半期の搬送者数を年齢別で見ると、65 歳以上の搬送者数が 17,358 人で全体の 52.6%を占めており、前年の上半期に比べ、901 人増加しています。
- 平成 29 年上半期の 65 歳以上の搬送者数を事故種別で見ると、急病（11,753 人、前年比 622 人増）、一般負傷（3,301 人、前年比 175 人増）、転院搬送（1,735 人、前年比 121 人増）が増加しています。

65 歳以上の高齢者で、転倒等により救急搬送される方が増加しています。
段差につまずかないように注意していただき、家の中の整理整頓による安全な通路の確保や滑り止め対策をするなど、転倒を防ぐ対策をお願いします。

トピック

今年は、例年にも増して熱中症により救急搬送される方が増加しています。
高齢者や子どもは熱中症になりやすいため、炎天下での外出や運動を避けたり、こまめな水分の摂取や、エアコンや扇風機を使用するなど、熱中症の予防をお願いします。
また、屋内外を問わず、作業される方も熱中症に気をつけてください。

救急概況

1 出動状況

平成29年上半期の出動件数は37,957件、搬送者数は33,030人でした。

これは、1日に平均209.7件、6分52秒に1件の割合で出動し、市民の約20人に1人が利用していることとなります。

1日の最高出動件数は267件（1月23日）で、最低出動件数は167件（6月21日）でした。

区分	救急出動件数(件)	救急搬送者数(人)	1日あたりの出動件数	出動頻度	救急車利用率(人)
平成29年上半期	37,957	33,030	209.7	6分52秒に1件出動	市民約20人に1人
平成28年上半期	36,967	32,575	203.1	7分05秒に1件出動	市民約21人に1人
増減	990	455	6.6	-	-
増加率(%)	2.7%	1.4%	3.2%	-	-

※ 救急車利用率については、各年の1月1日現在の推計人口を出動件数で除して算出(年利用率に換算)

(月別救急出動件数)

(件)

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計
平成29年	6,934	5,990	6,440	6,199	6,450	5,944	37,957
平成28年	6,503	6,002	6,248	6,030	6,147	6,037	36,967
差	431	△12	192	169	303	△93	990

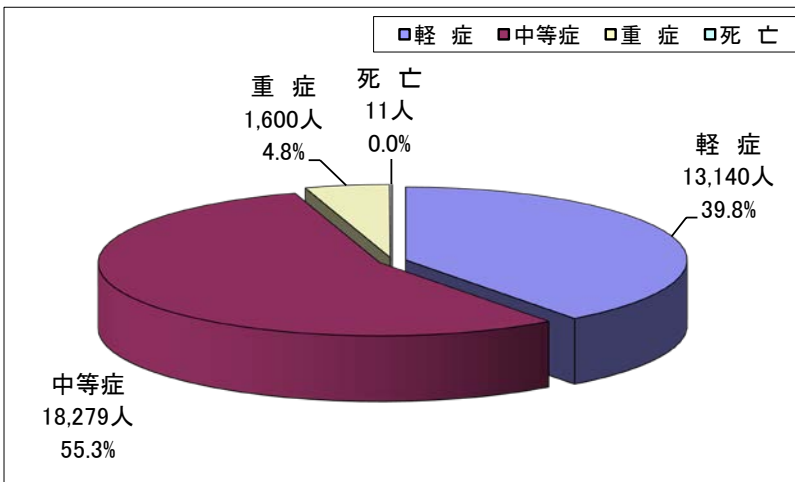
2 事故種別出動件数

救急隊が出動した37,957件を事故種別に分けると「急病」が全体の約65%を占めており、以下「一般負傷」、「転院搬送」の順となっています。前年の上半期に比べ、「急病」や「一般負傷」の件数が特に増加しています。

区分	平成29年		平成28年	増減(件) (A-B)	増減率
	(A)上半期(件)	出動件数に占める割合	(B)上半期(件)		
急病	24,552	64.7%	23,968	584	2.4%
一般負傷	5,632	14.8%	5,337	295	5.5%
転院搬送	2,892	7.6%	2,886	6	0.2%
交通事故	2,822	7.4%	2,711	111	4.1%
自損行為	453	1.2%	445	8	1.8%
運動競技	231	0.6%	197	34	17.3%
加害	219	0.6%	251	△32	△12.7%
労働災害	192	0.5%	202	△10	△5.0%
火災	102	0.3%	93	9	9.7%
水難	37	0.1%	34	3	8.8%
自然災害	-	-	2	△2	△100.0%
その他	825	2.2%	841	△16	△1.9%
合計	37,957	-	36,967	990	2.7%

3 傷病程度別搬送者数

医療機関に搬送された 33,030 人を程度別にみると、「中等症」が最も多く、次いで「軽症」、以下「重症」、「死亡」の順となっています。

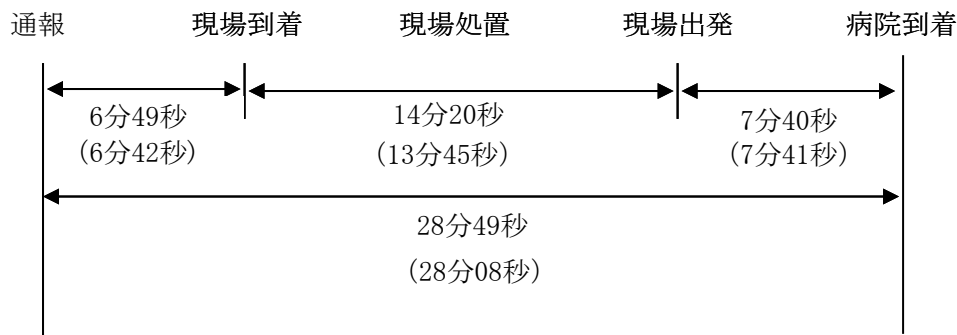


死亡……初診時において、死亡が確認されたもの。
 重症……傷病の程度が、3週間以上の入院加療を必要とするもの。
 中等症…傷病の程度が入院を必要とするもので、重症に至らないもの。
 軽症……傷病の程度が入院を必要としないもの。

区 分	平成29年上半期		平成28年上半期		増減(人)	増減率
	搬送者数(人)	割合	搬送者数(人)	割合		
軽 症	13,140	39.8%	12,947	39.7%	193	1.5%
中等症	18,279	55.3%	18,037	55.4%	242	1.3%
重 症	1,600	4.8%	1,577	4.8%	23	1.5%
死 亡	11	0	14	0	△ 3	△ 21.4%
合 計	33,030	-	32,575	-	455	1.4%

4 救急活動所要時間

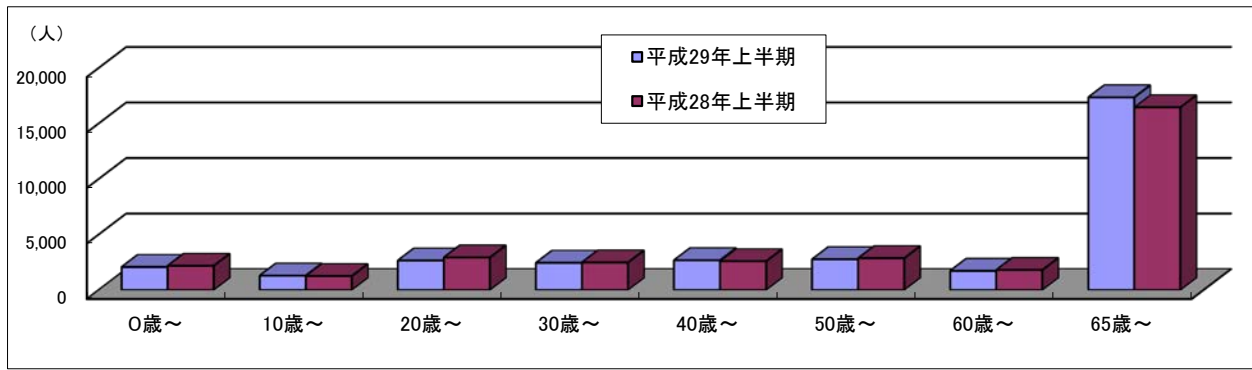
平成 29 年上半期の 119 通報を受けてから「現場到着」、「現場処置」、「病院到着」までの平均所要時間は、次のとおりとなっています。



平成 28 年中の通報から病院到着までの時間は、政令市の中でトップクラスとなっています。(平成 27 年中全国平均：39 分 24 秒)
 しかし、救急出動件数の増加や交通状況等により、病院到着までの時間は年々伸びています。
 車等の運転中に緊急自動車が接近してきた場合には、道を譲ってください。

5 年齢区分別搬送者数

平成 29 年上半期の年齢区分別の搬送者数は、「65 歳以上」が全体の 52.6%を占め、以下「50 歳代」、「40 歳代」、「20 歳代」の順となっています。



区 分		0歳～ 9歳	10歳～ 19歳	20歳～ 29歳	30歳～ 39歳	40歳～ 49歳	50歳～ 59歳	60歳～ 64歳	65歳 以上	合計
平成29年上半期	搬送者数(人)	2,076	1,297	2,660	2,452	2,684	2,772	1,731	17,358	33,030
	割合	6.3%	3.9%	8.1%	7.4%	8.1%	8.4%	5.2%	52.6%	-
平成28年上半期	搬送者数(人)	2,185	1,253	2,936	2,485	2,592	2,866	1,801	16,457	32,575
	割合	6.7%	3.8%	9.0%	7.6%	8.0%	8.8%	5.5%	50.5%	-

6 65歳以上の主な事故種別搬送者数

平成 29 年上半期の 65 歳以上の主な事故種別搬送者数は、前年の上半期に比べ、急病、一般負傷及び転院搬送が増加しています。

(人)

区 分	急病	一般負傷	転院搬送	交通事故	その他	合計
平成29年上半期	11,753	3,301	1,735	451	118	17,358
平成28年上半期	11,131	3,126	1,614	452	134	16,457
増減	622	175	121	△ 1	△ 16	901